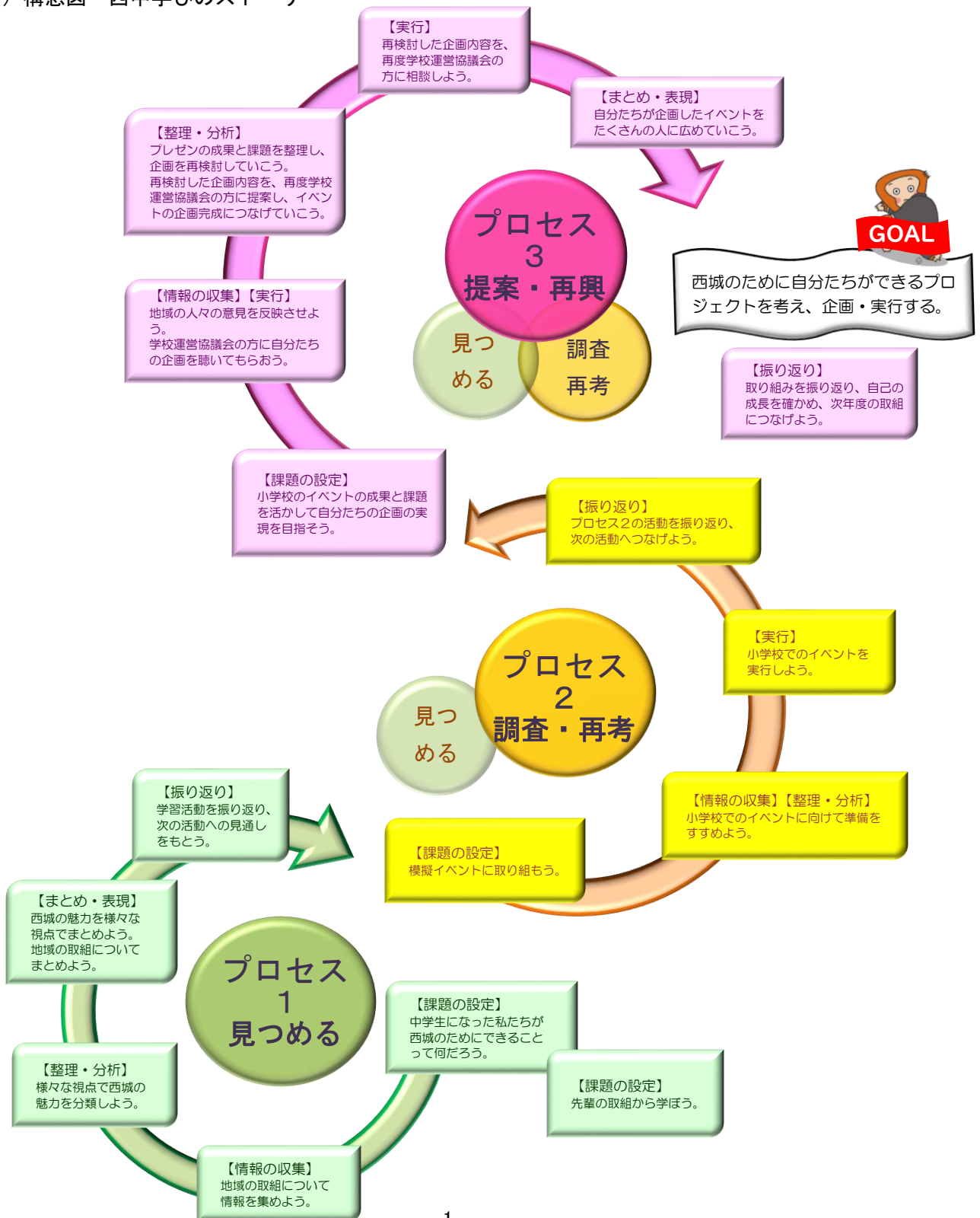


単元名

みんなで見出そう！守りたい西城の伝統・イベント ～再考・再興・最高！西城！～

1 単元について

(1) 構想図・西中学びのストーリー



本校では、総合的な学習の時間の探究課題の柱の一つとして、「郷土を考える」というテーマを設定している。全学年で「西城を活性化する」という共通認識をもち、各学年の発達段階に応じた取組を進めている。本学年では、キーワードを「見つめる」として単元開発を行い、2学年のキーワード「探る」、3学年のキーワード「創る」につなげていく。

1学年の学習では、「みんなで見出そう！守りたい西城の伝統・イベント～再考・再興・最高！西城！～」と題し、3つの小単元（プロセス）を設定した。この単元は、生徒が少子高齢化やコロナ禍により衰退している地域の行事を自分たちの力で復活あるいはリニューアルさせたいという思いを持っていたことから設定した。

まず、小単元（プロセス1）では、小学校の時の取組を振り返りながら西城の魅力や課題を見つめ直す。また、中学生の自分たちが地域のためにできることを考え、行動化する。はじめに地域の実態や魅力を知るために、実際に地域に出て校外学習を実施し、地域資源の活用や地域行事に携わっている方からのインタビューや現地調査を行う。自分たちが知らなかった地域の良さやイベント運営に向けてのノウハウについての情報収集をしていき、どのようなイベントなら地域を活性化させることができ、実現できるかの視点をもって自分たちの取組案を作成する。

次に、小単元（プロセス2）では、校外学習で得た情報をもとに、地域資源である木材を活かしたイベントを考え、小学生（対象：小学校4年生）との交流会を計画、実施する。その小学生へのイベントで成果や課題を見出し、地域活性化のイベント企画案につなげる。具体的には、イベント対象者を小学校4年生にしぼって企画を考え、その企画したイベントを運営していく。そのイベントの実施後には活動を振り返り、地域を活性化するイベントを実現させるためのポイントや改善点をつかみ、小単元（プロセス3）でのイベントの企画・運営に役立てる。

最後に、小単元（プロセス3）では、小学校でのイベントの検証を踏まえるとともに、視野を地域全体に広げ、地域を活性化させるイベントの企画と提案の実践を目指す。プロセス2のイベント実行・振り返りから得た実現性と有用性、独自性（中学生らしさ）の視点をもってイベントを企画する。具体的には、学校運営協議会委員の方に自分たちのイベント企画の案を発表する機会を設け、自分たちの思いをしっかりと伝え、また、地域の方の意見をしっかりと聴き、企画案の改善・充実につなげていく。

本単元（ストーリー）の3つの小単元（プロセス）の過程を通して実際に体験や交流をしたり、小さなイベントの企画・運営をしたりすることで、地域のことをより深く知り、中学生の力で地域に貢献できることを探究していく。また、クラスの仲間だけでなく、地域の方々に自分たちの思いを伝えたり、地域の方々から自分たちが気づけていない視点からの意見をもらったりする活動を通して、自分から活動を考え、取り組んでいく「主体性」、仲間や関係機関とのコミュニケーションを通してつながりや新たな価値を見出す「協調性」、課題を解決していく過程の中で企画力、行動力、表現力等の「課題解決力」を培う。

（2）生徒観

本校の育成したい資質・能力に関するアンケートでは次のような結果であった。

資質・能力	質問内容	肯定的回答 (4月)	肯定的回答 (7月)
主体性	授業で分からないところや知りたいことを質問したり家庭学習で調べたりしようとしています。(主体性)	75.0%	85.0%
	授業で学んだことが自分の将来にどのように活かすことができるか考えて学習に取り組もうとしています。(将来)	70.0%	90.0%
	身の回りの生活や地域社会での出来事に関心をもち、地域で開催される行事には内容によっては参加しようと思っています。(社会参画)	90.0%	95.0%
協調性	ペアやグループでの話し合いでは、仲間の意見や考えを聞いたり、自分の考えを話したりしようとしています。(相互理解)	85.0%	90.0%
	仲間とのペアやグループの活動や地域の方と関わる時には、一緒に協力しながら取り組もうとしています。(協働)	60.0%	85.0%

協調性	学習活動をする中で班やクラスで決めた目標に向けて、自分の役割を理解し、自分の役割を果たそうとしたり、自分の得意を發揮したりしようとしています。(自己理解・役割・貢献)	55.0%	80.0%
課題 解決力	学習や生活の目標を立て、計画を立てたり、取組方法を考えたりしています。(計画)	65.0%	89.5%
	課題解決に向けて、複数の手段で情報を集め(調べ)、整理しています。(情報収集・整理)	65.0%	90.0%
	課題解決に向けて、集めた情報を複数のまとまりに分類しながら解決方法を考えています。(情報の分析)	70.0%	85.0%
	授業の中で自分の思いや考えをもち、様々な場面で表現しようとしています。(積極的にまとめ表現)	60.0%	70.0%
	スピーチやプレゼン以外の表現方法も考えて伝えることができます。(工夫してまとめ表現)	55.0%	70.0%
	学習の振り返りをするときには、何を学んだのか、どのように課題を解決したのかを振り返り、「もっと考えてみたいこと」「もっと工夫してみたいこと」などを整理しています。(振り返り)	50.0%	75.0%

4月と7月を比較したアンケート結果から、これまでの成果は次の2点を考えている。1点目は、主体性、協調性に関する項目が、どの項目も向上しており、主体性、協調性の高まりが見られることである。

特に、地域への関心はとて高く、小学校から「総合的な学習の時間」で「地域」をテーマにした探究活動を継続して行ってきたこと、1学期に校外学習に行き、地域の様々な施設や地元の豊かさに触れてきたことが要因だと考えている。

2点目は、計画を立てたり、情報を集めたり、情報を分析したりする点が向上していることである。これは、1学期の総合的な学習の時間の中で地域のイベントについて情報を集める活動を仕組み、その学びを整理して、校外学習につなげた取組の中で力をつけた部分であると考えている。

一方で、現状の課題は、次の2点と考えている。1点目は、学習したことを振り返り、次の学習に活かす取組の充実である。その時間はしっかりと学習に取り組めるが、その時間で成果と課題を次に活かすことがまだ十分にはできていない。活動のゴール達成のために、改善点を意識して次につなげていく仕組みづくりが必要である。

2点目は、相手や場面に応じた表現力の向上である。「積極的にまとめて表現する」項目と「工夫してまとめて表現する」項目が70%程度と他と比べて低い。日頃から授業中に積極的に発言する雰囲気はあるが、発言する生徒は固定化しており、全体としての表現力はまだ十分とは言えない。特に、学級全体へ発表する場面や他学年へ発表する場面、先生以外の大人へ発表する場面では、自信がもてていないため、まだまだ発表する生徒が固定化している。また、声が小さくなったり、原稿をそのまま読むように発表したりする生徒も少なくない。

(3) 指導観

各探究の過程において、「西城町を活性化する」という目的を常に意識して学習に取り組ませること、生徒の柔軟な発想を大切にしながら生徒が主体となって表現したり試行錯誤したりできる取組を進めていくことを指導のポイントとする。総合的な学習の時間発表会の中で、西城町を活性化するイベント企画を提案し、発表を聴いた人に西城の良さを伝え、「ぜひ、このイベントをやって西城町を盛り上げたい。」「このイベントだったら、参加してみたい。」と感じてもらうことを本単元の1つのゴールとして設定する。

このイベント企画提案に向け、次の2つの学習活動を仕組み、この活動を通して、本校が育成したい生徒の資質・能力の向上を図っていく。

1つ目は、客観的な視点から自分たちのイベント企画を評価してもらう機会を設け、現状の成果と課題を多面的・多角的に把握する学習に取り組ませる。具体的には、学校運営協議会委員の方にイベント企画案を聴いて評価していただく会を設定する。その会の中で、自分たちの企画の良いところや課題に

気付き、良さの伸長と課題の改善を図り、イベント企画を修正する。更には、修正したイベント企画を再度学校運営協議会委員の方に提案し、さらなるブラッシュアップに取り組んでいく。

2つ目は、ペアやグループでの意見交流だけでなく、様々な機会を捉えて自分の意見を伝え、自分の考えや表現力を高める学習に取り組ませる。具体的には、グループ協議のまとめを全体に報告させる場面、総合的な学習の時間発表会で他学年の生徒や保護者に向けて発表する場面、学校運営協議会委員の方にプレゼンを聴いてもらう場面等、機会ごとにまた、場面や状況、振り返りを活かして表現方法についても適宜指導する。自分の意見を伝えていく学習を進め、それぞれの状況や相手に応じて効果的な表現方法を選択させる。具体的には、結論先行型の発言の仕方、興味をひくキーワードでの整理、視覚的にわかるようなフリップ提示など、場面を捉えながら、一つ一つやりきらせ、肯定的に評価し、挑戦を積み重ねることで発表への自信につなげていく。

2 ストーリーの目標

【主体性】

地域を元気にするために自分たちができる取組を考え、課題解決に向けて自分から案を出したり思いや考えを伝えたりしながら主体的に取り組むことができる。

【協調性】

自他の考えを共有したり、仲間や地域及び関係機関との関係づくりを進めたりしながら、課題解決に向けて協働する。

【課題解決力】

課題を自分や地域社会と関わることとして捉えるとともに、課題解決に向けて広い視野をもって情報収集をしたり、整理分析したり、他者に分かりやすく伝えたりと目的や目標の達成に向けて多面的に行動する。

3 総括的な評価

(1) ストーリーのゴールイメージ

西城のために自分たちができるイベントを考え、企画・提案し、西城町を元気にする。

(2) ストーリーのループリック

評定	観 点
A	「地域を元気にする」という目標をもち、西城の魅力や伝統をもとに多様な視点から分析し、イベントの企画を考え、実現性の根拠をもって、わかりやすく熱意をもって提案することができた。
B	「地域を元気にする」という目標をもち、西城の魅力や伝統を活かしたイベントの企画を考え、分かりやすく提案することができた。
C	西城の人を元気にするためのイベントを企画し、提案することができた。

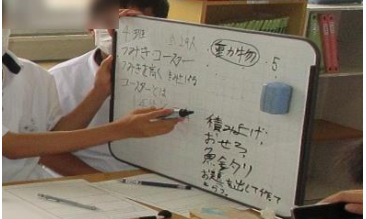
4 プロセスの評価規準と本校で育成したい資質・能力とのかかわり






評価の観点	本校で育成したい資質・能力	評価規準
主体的に学習に取り組む態度	主体性	① 地域を元気にするためのイベントの提案や実現に向けて、解決策を見出しながら自ら取り組もうとしている。【主体性】 ② 自分の得意や良さを理解し、取組や活動で活かそうとしている。【自己理解】 ③ イベントの企画や提案を通して、地域社会の問題に向き合い、取組を進めようとしている。【社会参画】 ④ 計画を立て、先を見通して活動することで、自己の将来を考える際の力を身に付けようとしている。【将来設計】
	協調性	⑤ 他者の考えを共有し、よりよい方向を導き出そうとしている。【他者理解】 ⑥ 仲間や地域及び関係機関と関係づくりを進めながら、イベントの企画、提案、実現に向けて協働しようとしている。【協働性】
思考・判断・表現	課題解決力	⑦ 取組の目的やストーリーの目標を意識し、地域に向けた取組（イベント）の実現に向けて見通しをもっている。【課題の設定】 ⑧ イベントの企画や提案に向けて、地域の現状や企画内容に関すること、他地域での取組について情報収集している。【情報の収集】 ⑨ 視点を定めて、必要な情報を分析している。【整理・分析】 ⑩ 企画内容を提案するために、企画書やプレゼン資料にまとめている。【まとめ】 ⑪ 自分の思いをもち、聞き手に分かりやすく、説得力あるプレゼンをしている。【表現】 ⑫ 学習の進め方や仕方を振り返り、次の学習に向けての見通しを考えている。【振り返り】 ⑬ 地域にはまちづくりや地域活性化の取組があること、それに関わる人々の願いや思いを理解している。【知識】
知識・技能		⑭ 目的や相手に応じた適切な言動や行動が様々な場面や状況で活用できている。【技能】 ⑮ 西城町の課題と良さに気付き、これまでの学習を活かしながら地域に視野を広げたイベントの企画を考え提案し、実現に向けて取り組むことができたことは、探究的に学習したことの成果であると気付いている。【探究的な学習のよさの理解】


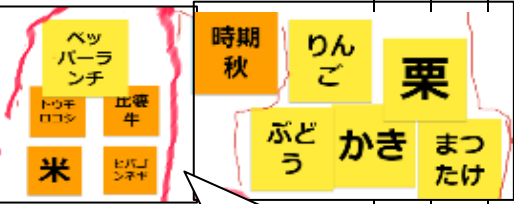
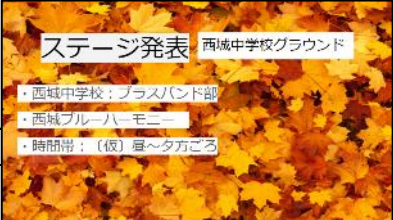
5 指導と評価の計画（全 35 時間）


時	学習内容 ◎他教科等とのつながり	実践記録	評価			
			主	思	知	評価規準 (評価方法)
1 2 3	<p>【プロセス1】 課題の設定</p> <p>中学生になった私たちが西城のためにできることは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校での総合的な学習の時間の取組内容を振り返る。 これまでの先輩方の総合的な学習の時間の取組内容を知る。 これまでに学んだ地域の魅力と課題から、1年生としての学習の方向性を見出す。 	<p>〈プレ探究の取組〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元を学習する前に、探究の流れをつかむことを目的として、全校による総合的な学習の時間を設定し、縦割り班で課題解決に取り組んだ。プレ探究のテーマは、「西中発信プロジェクト」とし、中学校からの発信として地域にできることをポスターにまとめ、提案する活動を行った。 西城の魅力について、小学校での学習も振り返りながらジャムボード上に出し合い、分類した。 		○		主 - ③ (行動観察、ジャムボード)


	<p>・「西城を元気にする」という目的を確認・共有する。 →地域のお祭りがコロナで減っているの、自分たちの力でイベントを復活またはリニューアルできないだろうか。</p> <p>(生徒が思う活気ある西城の状態) ・イベントや祭りがあり西城の人たちが賑やかになる ・西城のイベントに色んな人が参加する ・色んな人(町外の人も)が西城に観光に来てくれる ・マスクなしで、みんなの笑顔が見られる</p>	<p>・今の西城には元気がある？ ない？を生徒に調査し、課題設定につなげた。 ある派 10 人(温かい、優しい人が多いから) ない派 11 人(伝統が消えつつあるから) ・プロセス 1 のゴール(学年目標)を共有し、個人目標を設定した。</p>			
<p>4 5 6</p>	<p>情報の収集</p> <p>地域のイベントについて情報を集めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西城町にどんなイベントがあるか調べる。 ・自分たちがやってみたいと思うイベントを構想し、必要な情報を集めるための手段を考える。 <p>◎社会科「身近な地域の歴史」</p> <p>(実際に出了案) ・雪を使って雪合戦、そり、かまくら作りなどを行う冬まつり ・ふるさと祭りの復活として、西城の特産物を活用したグルメを楽しむ秋祭り ・地域の方とコミュニケーションを図るための餅つき ・西城の木を使ったおもちゃをつかって、どねりゃあ祭等の地域のイベントで子どもたちと交流</p>	<p>・新たなイベントを創る、今あるイベントをリニューアルさせるの 2 つの方向でイベントを考えた。 ・出し合った案を整理し、イベントの方向性を決めた。 (ジャムボードで思考を整理)</p>			<p>課 - ⑧ (行動観察、ワークシート)</p>
<p>7 8 9 10 11</p>	<p>情報の収集</p> <p>校外学習に行き、様々な分野から、イベント運営のノウハウを学ぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外学習で知りたい情報を出し合い、整理する。 ・西城の自然を生かしたイベント、西城の資源を活用してできるイベントについて、校外学習や体験を通して知る。 ・木材を活用したクラフト体験を通して、地域資源の活用方法について知る。 ・イベント運営の仕方についてインタビューする。 <p>クロカンパーク パークゴルフを体験し、公園の活用方法を知る</p> <p>森林の学び舎比和 地元の木を使ったクラフト体験</p> <p>道後山高原山荘 西城を盛り上げる取組について取材</p>	<p>・イベントを考えていく中で、もっと地域を知りたいという要望があり、校外学習へ行くことにした。</p> <p>・校外学習に行き、イベントが行われている施設を見学したり、参考意見を聞いたりして自分たちのイベント企画の参考にした。</p>			<p>主 - ① (行動観察) 課 - ⑧ (インタビュー内容)</p>

12 13	<p style="text-align: center;">整理・分析</p> <p>現地調査で得た情報を整理し、今後の取組について検討していこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集した内容を整理する。 ・校外学習で学んだことを活かして、地域全体の前に、身近な人を対象にできないか考える。 	<p>(校外学習のまとめより)</p> <p>【森の学び舎】 プログラム(イベント)を計画する上で大切なポイントは、来客の要望に応える、事前打合せを念入りにする、木の魅力を伝えるなどがある。</p> <p>【道後山高原山荘】 計画を立て、ミーティングを繰り返す心に余裕をもち、周りに気を配る</p> <p>【クロカンパーク】 市と話し合い協力しているイベントを開催している</p>	○	課 - ⑨ (ワークシート)
14	<p style="text-align: center;">まとめ・表現 振り返り</p> <p>学習活動を振り返り、次の活動への見通しをもとう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロセス1での活動内容を整理し、成果や課題について振り返り、次のプロセスへの見通しをもつ。 <p>(プロセス1の振り返りより)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントを主催する側になったら、協力してもらえ方を集めたりイベントの工夫を考えたりと大変なことがたくさんあると改めて感じました。校外学習で聞いたことを今後の活動に活かしていきたいです。 ・計画するだけで終わらせるのではなく、何が起こるか予測し、どう対策すべきかも考えていかないといいなと思いました。 	<p>(プロセスの振り返り手順)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①プロセスで取り組んだことを箇条書きで整理する。 ②このプロセスを通して新たに知ったこと、気づいたこと、自分に力がついたことについてまとめる。 ③このプロセスでうまくいかなかったことについてまとめる。 ④次のプロセスで取り組みたいことについてまとめる。 	○	課 - ⑫ (振り返りシート)
1 2	<p>【プロセス2】 課題の設定</p> <p>模擬イベントに取り組もう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林の学び舎での学びを活かし、西城の資源(木材)を活用したイベントの企画を考える。(身近な小学生を対象に、小学生に喜んでもらえる企画を考える) ・イベントの目的を確認し、ターゲットを決め、イベント内容を具体化していく。 <p>【イベントのゴール】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①主催者が意図したイベントにする。 ②イベントを通して、西城の木材資源の良さを伝える。 ③参加した児童がそのイベントで元気になる。 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の木のイベント「ウッド・フェス in 西城」に向けて準備、情報収集した内容を整理する。 ・校外学習で学んだことを活かして、地域全体の前に、身近な人を対象にできないか考える。 ・イベントに向けた計画を立て、役割を分担し、活動の見通しをもつ。 <p>(役割分担) 企画班(企画書作成、チラシ作成等)、運営班(当日の司会、挨拶、タイムキーパー等)に分かれて、準備を進めることにした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プロセス2のゴール(学年目標)を共有し、個人目標を設定した。 <p>小学校で木を使ったイベントを成功させる!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬イベントとして、木を使ったおもちゃで子供たちと交流するイベントを小学校で開催するために、具体的に何をつくって交流するかを考えた。  <p>⇒小学校との連携の上、4年生の児童を対象にイベント開催することにした。</p> <p>(考えた内容) 積み木、だるま落とし、ビー玉転がし、パズル、コースタをつかってプレゼントなど</p>	○	課 - ⑬ (行動観察、ワークシート) 主 - ④ (行動観察)

<p>3 4 5 6</p>	<p style="text-align: center;">情報の収集 整理・分析</p> <p>小学校でのイベントに向けて準備をすすめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象者（小学4年生）のイベント実行に必要なことを調べる。（木のおもちゃの作り方、遊び方等） 西城らしさや西城を元気づける意図が伝わるものになるように工夫させる。 運営するにあたり、進行の流れについて整理し、イベントの企画書（イベントの目的、内容、運営の流れ）を作成する。 安全面にも配慮しながら、小学生に楽しんでもらえるものになっているかクラス内で交流し、検証する。 <p>◎技術科「丈夫な製品をつくるために」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">〈企画書の項目〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イベント名 ・ プロジェクトメンバー ・ 日時 ・ 目的 ・ 対象 ・ 具体的な内容 ・ 役割分担 ・ 詳細 ・ 特記事項 </div>	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの役割に分かれて準備を進めた。  <p style="text-align: center;">木のおもちゃの作成</p>  <p style="text-align: center;">ポスターを作成し、小学校に届ける</p>  <p style="text-align: center;">児童役、生徒役に分かれてイベント進行の検討</p>  <p style="text-align: center;">リハーサルで最終確認</p>	<p style="text-align: center;">◎ ○</p>	<p>協 - ⑤ （行動観察） 課 - ⑩ （企画内容）</p>
<p>7 8</p>	<p style="text-align: center;">実行</p> <p>小学校でのイベントを実行しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> イベントでの目標を再確認する。 小学4年生を対象に、イベントを実行する。 安全面に配慮しながら、小学生との交流を図るとともに、西城の魅力も伝えていく。 目標が達成したか、自己評価等で把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈児童アンケートより〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ウッドフェスがとても楽しかったです。この楽しさをもっとみんなに知ってもらいたいので、町全体に向けてもやってほしいと思いました。 <p>〈生徒の振り返りより〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この取組を通して、地域を元気にするためには、まずは地域の身近な人との関わりを大切にしていこうと始めていきたいと思いました。 ・ グループでしっかり協力して小学生たちを盛り上げることができ、自分たちも楽しむことができ、またイベントをやりたいという気持ちになりました。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 小学校に行き、模擬イベント「ウッドフェス in 西城」を開催した。  <p style="text-align: center;">おもちゃにも西城の魅力を伝える工夫を入れる</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験した児童へアンケートをとり、成果と課題を検証した。 	<p style="text-align: center;">○</p>	<p>課 - ⑭ （行動観察）</p>

9	<p>振り返り</p> <p>模擬イベントを振り返り、次の取組につなげよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロセス2での活動内容を整理し、振り返る。 ・イベントの成果と課題を整理する。 ・イベントに関わる改善点や修正点（企画面、運営面）を考え、小学生の満足度と、自分たちの意図が伝わったかどうか振り返る。 <p>〈プロセス2の振り返りより〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回のイベントの計画で、地域を盛り上げるためにできることを考えてみて、自分たちで計画を立てることの楽しさと難しさを学びました。地域の人を元気にしたり、盛り上げることは難しいことだけど、今回のイベントがその第一歩になり、私たちでも地域を盛り上げることができるのではないかと思います。 ・大きなイベントで人を集めるのではなく、小さなイベントや小学校や保育所などについてたくさん交流していくことも大切なのではないかと改めて思いました。たくさん交流してもっと西城のことをさりげなく西城の人に知ってもらいたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの総合的な学習の時間で学んだことや気付いたことを振り返った。 	○	課 - ⑫ (振り返りシート)
1	<p>【プロセス3】 課題の設定</p> <p>小学校でのイベントの成果と課題を活かして、自分たちの企画の実現を目指そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロセス1で考えていた企画について、校外学習での学びや小学校でのイベントの成果と課題を踏まえ、再度検討していく。 ・スライド作成、原稿作成等の役割を分担し、説明の準備をする。 ・校外学習で聞いたイベント運営の仕方や小学校でのイベントでの成果や課題を企画にどう反映させていくか考える。 <p>〈イベントを企画する視点〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 対象者を満足させることができる企画になっている。 ② 主催者の意図が伝わる企画になっている。 ③ 運営計画やタイムスケジュールが明確な企画になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロセス3でのゴール（学年目標）を共有し、個人の目標を設定した。 <p>西城町を元気にするイベントを、地域の方にプレゼンすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの企画の提案に向けて、企画する視点を提示して、常に意識して活動した。 	○	課 - ⑦ (行動観察、ワークシート)
2 3 4	<p>情報の収集</p> <p>地域の人々の意見を反映させよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントを企画する視点を提示し、企画内容を考えていく。 ・自分たちが知っている知識だけでなく、関係機関や身近な人から情報収集をする。 ・対象者、企画の意図、活動目的、内容、時期、協力者を明確にした企画書を作成する。 ・必要に応じて発表資料を作成し、プレゼンテーションの練習をする。 <p>◎国語科「行事案内リーフレット」</p>  <p>企画書を作成し、グループ内で役割を分担してプレゼンの準備をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プロセス1で考案した企画内容について、これまでの学びを踏まえて再検討した。  <p>具体的な提案になるようにアイデアを精査する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地元のもち米で餅つき」「スキー場で雪祭り」「旬な食材で秋祭り」の3つをプレゼンすることに決め、企画書を作成した。 <p>作成したスライドの一部（秋祭り）</p> 	◎	主 - ②、③ (行動観察) 協 - ⑤ (行動観察) 課 - ⑧、⑩ (行動観察、企画内容)

<p>5</p>	<p>実行</p> <p>学校運営協議会の方に自分たちの企画を聴いてもらおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの考えた企画をプレゼンテーションする。 地域の住民としての視点、大人の客観的な視点からアドバイスをもらう。 地域の強みや季節に応じた内容について、地域の住民視点での提案を聞く。 <p>〈第1回のプレゼンを振り返って〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 説明が不十分だった。もっと細かな計画を決めないといけない。プレゼンの中に、西城らしさ、自分たちらしさを出したい。 プレゼンをしてみて、改善した方がいいことが見つかったし、アイデアもいっぱいもらえた。今日アドバイスしてもらったことをもとにスライドの内容や話す内容を改善していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の方5名にプレゼンをした。  <ul style="list-style-type: none"> 各企画の具体的な改善内容について、学校運営協議会の方と検討した。  <p>企画内容の工夫や、企画した際に出た疑問を質問し、アドバイスを頂く</p> <p>〈学校運営協議会の方からの気付き〉</p> <ul style="list-style-type: none"> タイムスケジュール等、具体的な計画がほしい 幅広い年齢の人に本当に喜んでもらえる内容になっているのか など 	<p>○</p> <p>◎</p>	<p>協 - ⑥ (行動観察) 課 - ⑪ (プレゼン内容)</p>
<p>6 7</p>	<p>整理・分析</p> <p>プレゼンを成果と課題を整理し、企画を再検討していこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> いただいた指摘やアドバイスを整理して改善案を考える。 企画書の修正をし、プレゼンテーションの練習をする。 <p>キャンディーチャートを用いて、アドバイスを基に改善点や自分たちの思いを整理し、どの視点が不十分か認識し、次のプレゼンに活かす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時のプレゼンでいただいたアドバイスを、プレゼンの評価の視点ごとに整理した。  <p>②主催者の意図が伝わる企画になっている。</p>	<p>○</p>	<p>課 - ⑨ (行動観察)</p> 
<p>⑧ 9</p>	<p>整理・分析</p> <p>再検討した企画内容を、再度学校運営協議会の方に提案し、イベントの企画完成につなげていこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 改善した内容が伝わるように、企画をプレゼンする。 プレゼンの評価の視点をもって、評価する。 <p>〈プレゼンの評価の視点〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 対象者を満足させることができる企画になっている。 主催者の意図が伝わる企画になっている。 運営計画やタイムスケジュールが明確な企画になっている。 <ul style="list-style-type: none"> 立場が異なる他者と繰り返し関わることで、目的に照らして多様な視点で検討し、企画をブラッシュアップしていく。 生徒同士だけでなく、学校運営協議会の人にも入ってもらい、気になることを質問しながら協議する。 協議した内容を踏まえて、自分たちの思いと地域の実態、実現にせまる企画を完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前回のプレゼンから改良し、学校運営協議会に2度目のプレゼンをした。  <p>アドバイスを受けて反映させた内容も含めて企画内容をプレゼンする</p> <p>雪祭りin西城</p> <p>実施日: 月 日 実施場所: 県民の森 イベント内容: 雪合戦, そり, 雪像づくり</p> <p>※バスを西城支所とクロカンパークから1台ずついただきます。(チケットが必要です。) ※ご自身の車で来ても構いません。</p> <p>イベントで配布するためのチラシの見本等も作成し、プレゼンに臨む</p> <ul style="list-style-type: none"> 頂いた意見を踏まえて、企画内容について学校運営協議会の方と交流しながら再度検討した。  <p>前回のプレゼンから良かったことを評価してもらい、イベント実現に向けてさらに詳しい計画についてアドバイスを頂く</p>	<p>○</p>	<p>主 - ① (協議内容、行動観察) 協 - ⑤ (企画内容)</p>

10 11	<p style="text-align: center;">まとめ・表現</p> <p>自分たちが企画したイベントを、たくさんの人に広めていこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間発表会で提案する。 協力していただいた方々（学校運営協議会等の関係機関）を招待し、自分たちの最高のプレゼンを聴いてもらう。 <p>〈1年生の発表を聞いた他学年の感想〉</p> <ul style="list-style-type: none"> イベントを「実現する」という気持ちがすごく伝わってきた。 アドバイスを受けて、それをすぐに改善し、レベルアップしていく姿が素晴らしかった。ぜひ企画を実現させてほしい。 <p>〈保護者の感想〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 町内のイベントに参加して、よりよいプランが創れるように経験を積んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表会での提案に向けて、さらに再考し、準備を進めた。 これまでの過程も踏まえ、企画したイベントを全校生徒保護者に向けて発表した。  <p>企画のプレゼンに加え、校外学習、模擬イベント、イベント提案の取組を通して考えたこと等を発表</p>	○	課 - ⑭ （行動観察） 課 - ⑮ （行動観察、プレゼン内容）
12	<p style="text-align: center;">振り返り</p> <p>取組を振り返り、自己の成長を確かめ次年度の取組へつなげよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの取組を振り返り、成長したことや、今後につなげていきたいことを整理する。 地域との関わり方やこれからの学習について考える。 <p>〈生徒の振り返りより〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間を通して、自分の意見をもって話したり、分かりやすく伝えるためにどうしたら良いか考えることができるようになりました。 一人一人が自分の素直な言葉で伝えることが必要だと思いました。言われるのではなく、自分の気持ちを伝えることが大切だからです。 イベントを行う上で、目的や費用、どのように進めるのかなどを考えないといけなくて、具体的に考えることが大事だと分かった。プレゼンを通して相手へ自分の気持ちを伝えることが身についたと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの総合的な学習の時間で学んだことや気付いたこと、次につなげていきたいことを振り返った。 	○	課 - ⑫ （振り返りシート）

6 本時の学習

(1) 本時の目標

自分たちの意図や思いが伝わる企画の提案をし、その企画内容をさらにブラッシュアップすることができる。

(2) 本時のルーブリック

評定	観 点
A	イベントの実現に向けて、学校運営協議会の方のアドバイスから、自分たちの思いや願いも伝えながら共に協議し、それらを反映させて企画内容を検討することができる。
B	イベントの実現に向けて、学校運営協議会の方のアドバイスも踏まえ、自分たちの思いや願いも伝え、企画内容を検討することができる。
C	学校運営協議会の方のアドバイスを受けて、企画を検討している。

(3) 学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」と判断した生徒への指導の手立て) (◎深い学びを実現するための指導の手立て)	評価規準 (○) 資質・能力 (★) (評価方法)
1 本時のめあてを確認する。		
自分たちの意図が伝わり、参加者を満足させる企画をプレゼンし、さらにブラッシュアップする。		
2 取組の目的及び、提案する上で大切にしている視点を確認する。	◆本時の流れを視覚的に捉え、見通しをもたせる。	
〈プレゼンの評価の視点〉 ① 対象者を満足させることができる企画になっている。 ② 主催者の意図が伝わる企画になっている。 ③ 運営計画やタイムスケジュールが明確な企画になっている。		
3 再考した企画内容を学校運営協議会の方にプレゼンする。 プレゼン内容の評価をジャムボードに書き込む。	◇役割を分担し、学校運営協議会の方に提案させる。	
〈発表する人〉 ◇前回の発表でアドバイス頂いた内容や自分たちの意図も踏まえて企画内容をプレゼンする。 〈聴く人〉 ◇発表しているグループを見ての企画内容の気付き（参考になった点、質問、アドバイス等）を付箋に書かせる。（ジャムボードの活用）		
4 頂いた意見を踏まえて、企画内容について学校運営協議会の方と交流しながら再々検討する。	◇ジャムボードで出した評価を確認させる。 ◎プレゼンでの質疑応答で出した意見や他の班で自分たちの企画に活かそうなことをグループ内で共有し、前時までに活用したキャンディチャートを見返したり書き込んだりしながら思考を整理させる。	○他者の考えを共有し、よりよい方向を導き出そうとしている。（企画内容） ★協調性⑤
〈キャンディチャートの整理内容〉 		

<p>5 協議した内容を、全体で交流する。</p>	<p>◎他者の評価を全て取り入れるのではなく、自分たちの考えも大切にしながら取捨選択させ、自分たちの思いを伝えさせる。 ◆自分たちの意図について常に立ち返り協議させる。</p> <p>◇各グループで協議した内容を整理し、1分程度にまとめさせる。全体では、一部のグループに伝えさせ、今後の学習の見通しをもたせる。 ◇地域の方とのつながりがあったからこそ、より実現に近づく企画ができていることに気付かせる。</p>	<p>○イベントの実現に向けて、解決策を見出しながら自ら取り組もうとしている。 (協議内容、行動観察) ★主体性①</p>
---------------------------	---	---

(4) 板書計画

めあて 自分たちの意図が伝わり、参加者を満足させる企画をプレゼンし、さらにブラッシュアップする。

イベントの目的・・・地域を元気にするため

〈プレゼンの評価の視点〉

- ① 対象者を満足させることができる企画になっている。
- ② 主催者の意図が伝わる企画になっている。
- ③ 運営計画やタイムスケジュールが明確な企画になっている。

～本時の流れ～

- ① 目的と視点の確認
- ② プレゼン
- ③ グループで協議
- ④ 全体で共有